

## 法人本部

### ア 「社会人基礎力」と「信頼関係」について

「社会人基礎力」とは、2006年から経済産業省が提唱している社会人に必要とされる能力のことです。大きく「前の踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つに分けられ、それぞれの能力を構成する12の能力要素が明記されています。

【1】「前に踏み出す力」(アクション) → 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力

1. 主体性：物事に進んで取り組む力
2. 働きかけ力：他人に働きかけ巻き込む力
3. 実行力：目的を設定し確実に行動する力

【2】「考え抜く力」(シンキング) → 疑問を持ち、考え抜く力

4. 課題発見力：現状を分析し目的や課題を明らかにする力
5. 計画力：課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
6. 創造力：新しい価値を生み出す力

【3】「チームで働く力」(チームワーク) → 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力

7. 発信力：自分の意見をわかりやすくつた伝える力
8. 傾聴力：相手の意見を丁寧に聴く力
9. 柔軟性：意見の違いや立場の違いを理解する力
10. 情報把握力：自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
11. 規律性：社会のルールや人との約束を守る力
12. ストレスコントロール力：ストレスの発生源に対応する力

さて、昨年度の本部通信でも触れた【信頼関係】について、もう一度考えてみたいと思います。「エフォートレス思考」という本の一節。

「他人との共同作業をもっと簡単にする方法がある。それは信頼だ。信頼があれば、人々の調整にかかる労力が少なくて済む。素早く仕事を分担できるし、問題が起こっても率直に話し合うことができる。貴重な情報を独占せず共有できる。わからないことがあれば気軽に質問できる。意思決定のスピードと質が上がり政治的な争いが減る。一緒に働く経験を楽しむことができる。そして、人間関係の調整に手を焼くことなく、最優先の仕事にエネルギーを集中できる。その結果、パフォーマンスは飛躍的に向上する。『あなたの判断を信頼する。』この言葉を心から言えるとき、チームは魔法のようにうまくいく。」

社会人基礎力【3】で言う、「チームで働く力」が発揮できるためには、信頼関係があることが前提です。信頼関係を築くために一人一人に【3】の7～12の力が必要なわけ

職場での信頼関係は、ひとりでの勝手に出来上がるものではありません。職員一人一人の努力が必要というわけです。「お互い」が努力して、積み重なって築かれるものです。

では、利用者さんとの信頼関係はどうでしょう。まず私たちが利用者さんへ尊厳の気持ちを持つことは土台です。利用者さんを知り、特性を受け入れ、支援者として知識や経験を積んでいくことも重要です。まず、「私たちから」理解に努め、利用者さんに共感し、共に歩む気持ちを持ち続けていただきたいと思います。

法人理念に立ち返り、福祉のプロとして、人として、低きに流れることなく成長していきたいと思うのです。

## イ 事業所間の連携について

事業拡大により、また利用者さんご自身や保護者の方の高齢化により、法人内の事業所間・他法人の事業所との連携・情報共有の重要性はさらに増しています。ご自身の事業所からの視点だけで利用者さんを見るのではなく、他事業所とのつながりや社会生活全般ひいては人生のトータルを考えて見つめていただけますよう、お願いいたします。

## ウ 研修の充実

フレッシュな新卒の方の採用、20代・30代の若い方々の採用と続いています。

中途採用の方々も含め、福祉に興味を持ってくれる人たちが集まってくださるということはあるがたいことです。意欲を持った方々に応えられるよう、厚みのある内容の研修が準備できるよう努めていきたいと思えます。

昨今のニュースで、保育に当たる現場での、高齢者介護の現場での“虐待的行為”が取り上げられています。「虐待」「差別」「権利擁護」の意識についての研修も大切な課題となっています。それらの中味も厚くなるように考えていきたいと思えます。

リーダー職員、中堅職員を対象とした研修、法人全体研修も具体的な内容の検討を進めつつ計画していきたいと思えます。

(文責：匂坂文明 早川麻由美)